

会 議 名	港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託事業候補者 第2回選考委員会
開催日時	令和4年2月8日（火曜日）午前9時から10時まで
開催場所	港区役所3階産業・地域振興支援部会議室 Teams 会議
委 員	（出席者） 鍵屋 一委員長、名和 満副委員長、浅井真紀子委員、鳥居誠之委員、野々山 哲委員
事 務 局	産業・地域振興支援部地域振興課区民協働・町会自治会支援担当
会議次第	1 開会 2 第一次選考結果について 3 第二次選考について 4 第一回選考委員会会議録について 5 閉会
配付資料	・ 次第 ・ 資料1 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 事業候補者選考 【一次審査結果】 ・ 資料2 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 第3回事業候補者選考委員会進行スケジュール(案) ・ 資料3 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 第二次審査の実施に関する留意事項(案) ・ 資料4 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託 事業候補者選考 【二次審査結果】 ・ 資料5 港区町会・自治会まるごとデジタル支援業務委託事業候補者 第1回選考委員会議事録
会議の結果及び主要な発言	
事務局 委員長 委員全員 委員長 A委員	1 開会 ～省略～ 2 第一次選考結果について ～事務局採点部分説明～ 事務局採点で質問あるか 特になし 各委員が採点した部分について、講評してほしい。 ポイントは2点。事業の実現性については、A事業者は、大手企業、B 事業者は、NPOではないかと思われ、体制面ではA事業者を評価する。 もう一点、提案内容は、B事業者が良い。会計ソフト「ちまたの会計」 のアプリを取り入れたところは、良いと感じた。 また、A事業者は、大手企業だからかメタバースという言葉を使ってい

B委員	る。メタバースは、もっと先の話ではないか。企画提案書に記載してる こと自体違和感がある。 A事業者は、やはりサポート体制が整っており、資格が取れるという点 では、社員のモチベーションも高いと考えられるので高く評価した。 B事業者は、組織が小さいが故にアットホームなサポートが期待でき る。A事業者が提案した Google スプレッドシートは、誰でも使えるの かという点では、講座の主旨からしてハードルを下げるという意味で は、疑問である。体制が整いすぎて、わからない、できないというところ をサポートする部分については課題があると感じた。ただ慣れている という点においては、A事業者が評価できる。デジタル活用が持続可能 かという点では、客観的な評価が難しいが、A、B事業者が事業を継続 することで共に成長できると感じたので高く評価した。
C委員	町会・自治会のかかわりという点では、A、B事業者とも厳しめに採点 した。B事業者は、町会のデジタルデバインド解消の取組と担い手不足の 解消は、イコールではない上に、お助け隊のフォローについて具体的な 提案がない。実現性については、A事業者の実績は評価するが、兼務し ている業務が多い上、兼務先の距離が離れているという部分は、不安材 料である。業務体制は、B事業者の従業員数が5人、当事業は3人体制 で、業務担当者が10件も兼任している。業務のメインを担う有償ボラ ンティアを募集するということだが、ボランティア確保の担保がないと ころが不安要素である。 独創性については、A事業者は内容を盛り込みすぎ感があり、現実的か どうかという点で評価を厳しくした。
D委員	企画提案については、A事業者は、長期的な感覚で提案されている所を 評価した。町会・自治会に関しては、B事業者の方が現状を良く理解し ている点の評価した。実施体制は、A事業者の人員があり、高く評価し ている。B事業者は、出来なくはないかなと思うが、有償ボランティア が不安である。発展性については、A事業者は内容を盛り込みすぎた感 はあるが、ステップアップした先も提案しており、B事業者より評価を 高くした。
委員長	全体的に有償ボランティアの部分に関してB事業者の体制面が気になる ところのようだ。 個人の評価としては、B事業者については、町会・自治会に対しては、 初心者向けに「はじめての一步」「わかるできる」「楽しくないと続かない」 など、出来ない人の心をよく理解しているように感じ、小規模組織の良 い点である。体制面は、B事業者の有償ボランティア、IT技術者が二 人に対して、A事業者は不測の事態においても代替的なこともカバーで きるだけの能力がある。独創性については、A事業者が提案したバーチ

委員長 委員 事務局	ャル空間でのアバターのコミュニティについては、町会が本当に実現できるなら面白いと思い評価した。 各委員の講評を踏まえ、質問等あるか。 特になし 1点、お尋ねしたい。B事業者の3事業の実現性の評価で、最低点（8点）最高点（20点）で3段階の開きがある。今一度、評価した点、しなかった点を確認したい。
B委員	企業研修を行う経験上、B事業者は、顧客の要望を聞きながらフレキシブルにカスタマイズして対応できるのではと、高く評価した。一方で、事業者を採用するという意味では、各委員から意見があったように、小規模組織故の体制面の不安を加味して、一段階下げたい。
委員長 事務局 C委員	評価の主旨は、理解できる。事業を遂行するにあたって、決まった工程の中で対応できるかどうかという点が課題と考える。 一段階評価を下げることにについて了解した。 各委員の講評を聞いて、A事業者は自治体の実績を多く有しているため、実現性のところを、1段階高く評価したい。
事務局 委員長 委員 事務局	1段階評価を上げることにについて了解した。 改めて各自の採点で修正はないか。 特になし 最終結果は、A事業者は、894点、B事業者は、728点である。 両事業者とも加点を除いた部分で60%の最低ラインをクリアしている。
委員長 委員	点数については、決定し、結果は、一位がA事業者、二位がB事業者となる。二者とも二次選考に進んでよいか。 異議なし
事務局 委員長	3 第二次選考について 資料2～4について説明 事務局からプレゼン用の補足資料を認めるかという点と同じものを紙でも必要かについては、いかがか。
A委員 事務局	一点質問がある。プレゼンで事業者名を伏せる意味は。 個人的な志向が入らないようにということだ。一般的に区役所のプロポーザルでは、そのように実施しているので、ご理解いただきたい。
A委員 委員長	了解した。 補足資料については、趣旨を説明する際、わかりやすい写真や図など示してもらうのは良いと思う。常識の範囲内でお願いしたい。また、後で見直して質問したい場合、手元に紙資料があった方がよいので、お願いしたいがいかがか。
事務局 委員長	当日までに、準備する。 資料2～4については、これで良いか。

委員	承認
委員長	質疑応答の際に共通質問事項を設けるか。比較しやすいと思うが。
A委員	事務局で作れるのか。
事務局	委員の方々に、どのようなことを知りたいかあれば意見を聞きたい。 委員が審査するので、共通質問を設ける必要がなければ、それでも良い。
A委員	簡易共通質問は、あったほうがよい。
委員長	事業を実施するうえで、事務局側に疑問点があれば教えてほしい。
事務局	審査は、あくまでも委員が行うので、事前に委員長に相談して、委員長の判断で質問してほしい。
委員長	質問時間の関係もあるので、2、3問程度とし、そこから更に委員が、深掘して質問できそうなものを委員長から質問したいがよろしいか。
委員、事務局	了承
委員長	4 第一回選考委員会会議録について
委員	会議録に誤りがないか、確認してほしい。
	了承
	5 閉会
委員長	予定された議題は、終了した。他に何かあるか。
事務局	新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間が延長される可能性もあるため、第3回選考委員会もオンラインで実施することを想定して準備を進める。
委員長	委員からは何か質問あるか。 特にないようなので以上をもって、第2回事業候補者選考委員会を終了する。